

日本伝道会議第 6 回 分科会案

プロジェクト「ビジネス宣教協力の次世代構想」

2016.09.28(水)14:00~17:30 神戸コンベンションセンター

1. 分科会名: 「ビジネス宣教協力の次世代構想」

Next Generation Initiative for Business As Mission

2. 内容説明: 「アジェンダ 2030 を支えるビジネス宣教協力」

Business As Mission with Agenda 2030

3. 主な内容:

ビジネス宣教協力の次世代構想は、「未来 2020/2030/2050 をめざし、多文化共生社会における共存・協働により、社会変革・社会貢献を担う次世代グローバル人材・交流型イノベータを支える」ものである。

持続可能な開発のためのアジェンダ 2030 は、国連サミット(15.09.25-27 NY)で採択された。ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)は 2001 年に策定されたが、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)はその後継となる 2016~2030 の国際目標である。ミレニアム開発目標の残された課題(保健、教育)や新たに顕在化した課題(環境、格差拡大)に対応するべく、17 ゴール 169 ターゲットからなり、MDGs+SDGs(2001~2015+2016~2030)を支え続けることが求められる。

また、持続可能な開発のための教育(Decade of Education for Sustainable Development + Global Action Program, DESD+GAP(2005~2014+2015~2020))を支え続けることが求められる。

COP21(21st Conference Of the Parties, 1992 以降の気候変動枠組み条約第 21 回締約国会議, 15.11.30~12.11 Paris)は、2020~2030~2050 の世界の温暖化対策の大枠が合意された。

多文化共生社会における共存・協働による社会変革・社会貢献のタスクは、チーム構成メンバである隣人クリスチャン、隣人ヒンドゥーや隣人ムスリムとのチームワーク、隣人アジア人や隣人ディアスポラとのチームワークで推進・遂行される。そこで、アジアにおけるタスク事例を通して、次世代アプローチの開拓を展望する。

アサギマダラは、日本から台湾・陽明山への飛翔 2200Km、上海近郊平湖市への飛翔 1600Km、日本列島縦断の飛翔 2000Km の蝶で、有毒物質(防御物質)を食べて他の動物を近づけないようにしている。アメリカのオオカバマダラは、カナダからメキシコまで 3800Km という渡りをこなし、越冬すると北に戻る Monarch Butterfly である。移動を通して、世界環境と動植物に貢献する蝶の存在は何かを語っている。

今回は、以下の事例を通し、ビジネス宣教協力のタスクとリソースを展望する。

- ① **再生可能エネルギーと日本の未来： 牛山 泉(足利工業大学学長)**
〔風力発電が日本を変える〕
<http://www.ashitech.ac.jp/information/messageUshiyama.html>
- ② **カンボジア CJCC 主催 絆フェスティバルへのミレー生誕 200 年記念公演プログラム：**
青木 記代美(音楽・美術による文化交流ミニストーリー代表)
〔公益財団法人「東南アジア文化友好協会」を通じたカンボジア人留学生の帰国後フォローアップ〕
Ryuugakusei OB/OGOB/POG への協力〕
<http://www.wastours.jp/event/tayori/2014/140618.html>
- ③ **多文化共生社会における隣人とのチームワーク**
柳沢美登理(声なき者の友の輪 カタリスト)
<http://karashi.net/carrier/catalyst/yanagisawa/NL.html>
〔イスラーム圏ビジネスネットワーク、ヒンドゥー圏ビジネスネットワーク〕
- ④ **地域防災と地域包括ケア**
高橋裕子(奈良女子大学大学院教授)
http://www.com-info.org/ima/ima_20150526_takahashi.html
〔京都における地域包括ケアなどを通じた日本人・アジア人ディアスポラの内外連携〕
- ⑤ **アンビエント情報社会における宣教広報**
青木 勝(Diaspora Network for Japanese) <http://www.dnjonline.org/jp/>
〔ユビキタスからアンビエント情報社会への変遷、Corporate Social Responsibility + Creating Shared Value/CSR+CSV、宣教広報の展望〕

4. 時間割

- 14:00～14:15 青木 勝
14:15～14:45 牛山 泉
14:45～15:15 青木 記代美
15:30～16:00 柳沢 美登理
16:00～16:30 高橋 裕子
16:30～17:00 分野別スモールグループ
17:00～17:30 総括・祈祷連携

5. 主催団体： プロジェクト「ビジネス宣教協力の次世代構想」

青木 勝(プロジェクトリーダー)

連絡先： Tel: 090-9670-0591 E-mail: masaruaoki.dnj@gmail.com

6. 経緯

- 1) プロジェクト「ビジネス宣教協力の次世代構想」の分野別事例紹介を行い、宣教協力における多様と包括 Diversity & Inclusion について、情報共有と祈祷連携を推進する。
- 2) ローザンヌ世界宣教会議第 3 回 LCWE3(2010.09 Cape Town)を経て、アジア地域で行われた 7th Asia Lausanne Conference on Evangelism (ALCOE VII 11.06.01-04 Ulan Bator) にて、東日本大震災(11.03.11)以降復興再生をめざす課題先進国日本の宣教協力について、従前から推進されてきた生物多様性や持続可能な開発のための教育に加えて報告された。
- 3) LCWE3 以降はじめて開催された Business As Mission(BAM)の世界宣教会議である Global BAM Congress(13.04.25-28 Chiang Mai)にて、スマトラ沖地震などの大災害への祈祷連携の提案が日本から行われた。
- 4) JEA 宣教委員会主催 宣教シンポジウム・隣人シリーズ I 「ムスリムの隣人を愛する」(15.02.07 東京 OCC)にて、イスラーム圏のビジネスネットワークが報告された。
- 5) アジア日本語教会ファミリーキャンプ第 3 回(15.02.09-11 Singapore) イスラーム圏ビジネスネットワークとヒンドゥー圏ビジネスネットワーク、ラオスの教会状況などが報告された。
- 6) LCWE3 以降はじめて開催された Global Diaspora Network 主催 Global Diaspora Forum(15.03.24-27 Manila)において、大震災に対するアジア防災を支える祈祷連携への提案が日本から行われた。
- 7) 日本ローザンヌ委員会主催ローザンヌ・シンポジウム第 5 回(15.05.23 東京 OCC)
 - ・ ケープタウン決意表明のカテゴリーA~F の内、カテゴリーA [多元的でグローバル化した世界にあって、キリストの福音を証しする] の対応事例として取り組まれた。
 - ・ 社会変革プロジェクトを担うイノベーション人材を支えるビジネス宣教協力について、情報共有と祈祷連携が推進された。BAM with ESD (Business As Mission with Education for Sustainable Development)の包括的アプローチとリソース・ネットワーク形成が報告された。
- 8) 日本ローザンヌ委員会主催ビジョン・リトリート第 3 回(15.08.24-25)
テーマ「未来 2020/30 の多文化共生社会における社会変革を担う次世代キリスト者の育成と教会の役割」にて、ヒンドゥー社会変革とビジネスネットワークが報告された。
- 9) アジア宣教フォーラム第 4 回(16.02.12-13 OCC 508)と ANRC Open Forum(16.02.13 14:00-17:00 OCC402)にて、隣人 Christianity/Muslim/Hindu、アブローダーズ Abroaders、CSR+CSV、東京 2020 対応が報告された。
- 10) 世界華福中心 CCCOWE9(16.08.22-26 台平)では、2020 目標のアジア宣教協力が、報告される予定。

ローザンヌ運動 ケープタウン決意表明

1. Cape Town Commitment Part II

(3rd Lausanne Congress on World Evangelism: 2010.10.16-25 Cape Town)

- A 多元的でグローバル化した世界にあって、キリストの福音を証しする**
- B 分断され、損なわれた世界にあって、キリストの平和を築き上げる
- C 他の信仰を持つ人々の中でキリストの愛を生きる
- D 世界宣教のためにキリストのみこころを見分ける
- E キリストの教会を謙遜と誠実と質素へと呼び戻す
- F 宣教における一体性を目指す、キリストの体の内部における協力

2. CTC/Category A の概要

- 1) 真理とキリストの人格; 真理に生き告げ知らせる。聖書的福音の豊かさを提示する。
- 2) 真理と多元主義が提起する課題; 多文化共生社会にキリスト教弁証論への献身を拡大する。公的地位の人々に影響を与える。預言的関連で真理を語る。
- 3) 真理と職場; WLB で宣教を行う。テントメーカーとして取り組む。
- 4) 真理とイノベーション化したメディア; 全人的な聖書的世界観の文脈で福音伝達手段を考案する。
- 5) 真理と宣教における芸術; 宗教界で芸術は未開発の資源である。文化の違いを尊重し、独自の芸術的表現を称揚する。
- 6) 真理と先端技術; 先端技術の発展に貢献する。
- 7) 真理と公の場; 聖書的世界観から専門分野の発展に貢献する。

3. CTC/Category A のプログラム

- 1) 主旨: 歴史観と世界潮流をふまえ、多文化共生社会における社会変革を担う次世代イノベーション人材を支えるべく、復興・再生をめざす課題先進国日本のワークプレイス宣教 Workplace Ministry/Business As Mission の事例が紹介される。そして、「神のめぐみをあらわすクリエイターCreator」として、未来 2020 へ向け各人が各領域 Sphere で活かされる包括的なアプローチについて分かち合い祈り合う。

ローザンヌ・シンポジウム 第5回
ケープタウン決意表明 カテゴリーA

多元的でイノベーション化した世界においてキリストの福音を証する
経緯と展開

1. 社会変革を支える宣教協力

- 1) 激動する社会のさまざまな領域・場面において、**社会変革に取り組む多様なプロジェクトに関わる地域・業際ビジネスネットワークは、事業タスク推進と社会貢献の双方につながり展開されている。**そうした事例を通して、神の恵みにあふれた歴史的事実とそれを執り成し導かれるダイナミックな神の聖業に感動し推進する。
- 2) 課題先進国日本の世界貢献が Pray for Japan の重要な柱あり、内外邦人ネットワークで構成されるディアスポラ宣教協力によるビジネス宣教協力 (**Business As Mission with Global Diaspora Network 申命記 30:1-3**) が拡大されていることは主に喜ばれることである。そこで、世界・アジア・日本の多文化共生社会においておもてなしの心をあらわしつつ社会貢献する**次世代イノベーション人材が主に立ち返る**ことは、平和と持続可能な成長に必要な課題解決力や技術開発力の一層の拡大につながるため、それを支える宣教協力がネットワークとして整備拡充されることが求められている。東日本大震災(2011.03.11)を通して、世界のキリスト教系サポートは日本国民に大きく強く印象付けられてきた。今後も大震災が予測される中、**Creation Care(生物多様性、アジア防災や原子力防災など)を支える宣教協力**を展望する。
- 3) 教会活動や超教派ミニストリーが自治体や NGO/NPO とつながり、**社会変革に取り組むプロジェクトを通し持続可能な成長がうみだされ、神の大いなる恵み(憐みと恵み、慰めと励まし、執り成しと導き)が拡大される**ことは、地域・業際ビジネスネットワークのインフラ基盤の強化につながる。更に、多様なリソースや多様な事例が包括的に活用されるほどに、**宣教協力の再創造(Re-Creation)**が拡大されることが期待される。
- 4) **持続可能な開発のための教育 Education for Sustainable Development** は、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むこと (think globally, act locally) により、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動であり、その担い手を育む教育である。ヨハネスブルグサミット(2002)における日本提案に基づく国連 ESD10 年(DES: 2005-2015)として取り組まれている。未来 2020/2030(宇宙時代)の世界平和と地球環境保全のため、次世代教育(ESD)、防災・予防(アジア防災)、再生医療などビジネス宣教協力の強化が益々求められている。
国連 ESD <http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokuren/>



5) レジリエント社会(強靱な社会 Resilient society)を支える宣教協力

レジリエンスは、ストレスによる歪をしなやかに跳ね返す力・弾性力、困難や失敗から早期に立ち直り成長・進化して行く再起力・復元力・回復力、困難な状況においてもたくましく生きる力・逆境力、心が折れやすい者が最後まで遂行する力という意味で、組織づくりと個人のキャリア形成の双方に適用されている。レジリエントな社会は、危険に晒されたシステムや共同体、及び社会全体が、その影響を受けながらも抵抗し、あるいはそれを巧く吸収・管理しながら、早急かつ効果的に回復する能力を活かす社会を示す。ショックを予見し prospective disaster risk management、管理し回復する能力を強化するための変容プロセスで、事前の備え(予防 preventive を含む)と事後の対応の包括的アプローチが求められる。

国連防災世界会議は、第1回(1994 横浜)、第2回(2005 神戸)を経て第3回(15.03.14-18 仙台)が日本で開催された。第2回会議では2005年から2015年までの国際的な防災の取組指針である「兵庫行動枠組」が策定され、第3回会議では兵庫行動枠組の後継となる新しい国際的防災指針である「仙台防災枠組 2015-2030」と、防災に対する各国の政治的コミットメントを示した「仙台宣言」が採択された。

- ・国連防災世界会議第3回(15.03.14-18 仙台) <http://www.bosai-sendai.jp/>
- ・「レジリエントな社会構築と防災教育・地域防災力の向上を目指して」仙台宣言 http://www.edu.kobe-u.ac.jp/gsics-cp-asia/documents/bosaiPF20150314_J.pdf
- ・ユニセフシンポジウム「レジリエントな社会を、子どもたちと」
(日本ユニセフ協会設立60周年記念シンポジウム 15.03.14) <http://www.unicef.or.jp/event/sendai2015.html>
- ・公開フォーラム「災害にレジリエントな高齢化社会とコミュニティーの構築に向けて」
(WHO 神戸センター主催 15.01.17 阪神淡路大震災から20年を迎え、高齢化社会

において災害からの復興・回復力のあるコミュニティのあり方を検討する)

http://www.who.int/kobe_centre/mediacentre/announcement/forum_150220/ja/

- ・ OECD・富山市「都市の国際ラウンドテーブル 高齢社会におけるレジリエントな都市」
(14.10.17) http://www1.mlit.go.jp/report/press/toshi01_hh_000019.html
- ・ VISIONS Asia Resilience Forum 2014 (Community sustainability in Asia 主催
(14.09.12-14) http://visions.asia/report_2014sep/

6) アンビエント社会におけるサイバーフィジカルシステム **Cyber-Physical Systems in Ambient Society** を支える宣教協力

社会システムの抜本的な効率化を目指すCPSサービス

http://www.soumu.go.jp/main_content/000115481.pdf

- ・ パブリックフォーラム「サイバー・フィジカル融合社会のレジリエント生活空間の創
成」(15.03.17) <http://www.wcdrr.org/wcdrr-data/uploads/94/concept-poster.pdf>
- ・ JEITA <http://home.jeita.or.jp/is/index.html>
- ・ ロボット革命実現会議
http://www.kantei.go.jp/jp/97_abe/actions/201501/23robot.html

2. 次世代交流型イノベータを支える宣教協力

- 1) 異文化共生社会 Multi-Cultural Symbiotic Society において、人権・国籍・民族性に関
らず専門性で渡り歩く、国境を越えてキャリア形成する。国家・文化・コミュニティの
壁を乗り越えられる力を身につける多様性を身につけている。日本人の自分とイノベー
ションな自分を共存させ、使い分けることが求められる。
- 2) 地域・ローカルの問題を自分のものとして受け止め(One of them)、当事者の一人として
共に解決して行く、自分を One of us として受け入れてもらう。“Think globally, Act
locally”を実践する、多文化共生社会において自分の輪を持ちながら相互理解と協調性を
兼ね備える。コーリジョン・ビルディング Coalition Building により仲間を増やせる、
リソースのネットワーク、チームワーク、フットワークの活用が求められる。
- 3) Action to **Build Back Better**(被災前よりも良い社会を目指す復興、創造的復興)を担
うブリッジビルダー：災害による被害増大が持続可能な開発を阻害しているため、災害リ
スクを軽減するべく災害への備え向上と国際協力が求められる。 **レジリエント社会、
アンビエント社会に向け変革を支える防災・予防の包括的アプローチが求められる。**
- 4) デザイン・ドリブン・イノベーションは、技術革新によるイノベーションとは異なり、プ
ロダクトに**新しい意味を付与することによって創発するイノベーション**である。復興
・再生をめざす課題先進国日本が取り組むイノベーションを支える、日本の社会変革(社
会貢献)を支える包括的アプローチが求められる。

再生可能エネルギーと日本の未来

1. エネルギー概況

1) エネルギーの現状

エネルギー白書 <http://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2014html/>

2) 再生可能エネルギー・風力発電

NEDO 再生可能エネルギー技術白書

http://www.nedo.go.jp/library/ne_hakusyo_index.html

第3章 風力発電 <http://www.nedo.go.jp/content/100544818.pdf>

2. 風力発電

1) 風力発電が日本を変える <http://communitypower.jp/activity/683>

2) 日本：風力発電の現状と今後の展望 洋上風力発電の動向など

http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030901/files/2014072900029/thema1yojyo_furyoku.pdf

未来からの風が吹く 世界初 福島県沖浮遊体式洋上ウィンドファーム

http://www.hitachihyoron.com/2014/01_02/pdf/01_02_visionaries_2.pdf

3) 東アジアにおける洋上風力発電の現状と動向

http://jwpa.jp/news_pdf.php?i_news_content_id=132

4) 世界の風力発電動向 http://jwpa.jp/2012_pdf/90-34mado.pdf

5) 浮体式潮流・風力ハイブリッド発電 <http://www.modec.com/jp/business/skwid/>

3. 環境未来都市

1) 環境モデル都市(持続可能な都市のつくりかた) <http://future-city.jp/>

2) 北九州市環境未来都市 <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/000122188.pdf>

3) あわじ環境未来島 <http://www.awaji-kankyomiraijima.jp/eco/006/>

4. 分ち合いのポイント：**社会変革を担う次世代イノベーション人材を支える**

1) 世の中のニーズをタイムリーに捉え、ソリューションを導き出し牽引することは、人にも神にも喜ばれることである。それを意識して仕事し奉仕することが求められている。

2) ESD(持続可能な開発)、レジリエント社会(しなやかな回復が行われる社会)、アンビエント情報社会など、日本提案が国連ベースのプロジェクトになり早10年(2005-2014)が経過し、未来2020/2030をめざし次の10年(2015-2024)に向け運動が深化している。

3 世代に亘る人々が、各地域・領域の共同体(教会を含む)においてイノベーション人材を

支えるには、どのようにつながり推進して行くかを考えよう。

音楽と美術のコラボによるアート・プロデュース

1. ミケランジェロ・コンサート(12.02.18 第 16 回知求アカデミーコンサート)
 - 1) ミケランジェロの命日に贈る システィーナ礼拝堂天井画完成 500 年記念
Michelangelo di Lodovico Buonarroti Simon(1475.03.06-1564.02.18)
 - 2) 天地創造に込めた信仰、宗教改革前夜の歴史と葛藤を映す。天井画修復支援をした日本に感謝し、震災復興を励ましにやって来たミケランジェロが、生涯、作品に込めた謎・真情、時代背景の秘密を明かす。
 - 3) 企画開発・台本・演出・制作・プロデュースを含む包括的クリエイション

2. ミレー・コンサート(14.07.20 第 20 回知求アカデミーコンサート)
 - 1) 農民画家ミレー生誕 200 年記念に贈る
Jean-François Millet(1814.10.04-1875.01.20)
 - 2) 弦の達人・夢の饗宴 & 次世代に受け継ぐ地球・愛する知求
http://www.wastours.jp/f/org/20140603153444_22af79.pdf
 - 3) 世界 46 ヶ国に広がるスズキ・メソッドとエル・システム
<http://www.suzukimethod.or.jp/>
<https://www.globalgiving.org/projects/soma-childrens-orchestra-and-chorus/>
 - 4) カンボジア CJCC+EoJ 主催 Kizuna Festival(16.02.19-21)への参画：(公財)東南アジア文化友好協会提供プログラム「フィルム上映会 ミレー生誕 200 年記念公演」
<http://www.cjcc.edu.kh>

3. ナポレオン・コンサート(15.03.14 第 21 回知求アカデミーコンサート)
 - 1) ナポレオン百日天下から 200 年記念に贈る
Napoléon Bonaparte(1769.08.15-1821.05.05)の活躍(1800.06)
 - 2) オペラ「トスカ」：Puccini(1858-1924)/Tosca(作曲 1899.10 初演 1900.01.14)

4. 分ち合い祈り合いのポイント：**社会変革・社会貢献を担うエンターテインメント**
 - 1) 音楽と美術を融合させた包括的なアプローチ(デザイナー・クリエイター・プロデューサーによる総合的な次世代人材育成プログラム)：教会から一般社会に出てまた教会へ立ち返るサイクルを実現させるもので、人にも神にも喜ばれ感動し励まされるプログラムを創成することを積み上げて行く持続可能な開発のための教育が実現されつつある。
 - 2) 神のめぐみに感動しそれをあらかし広げて行くために、神から与えられた賜物を活かしニーズを見出しそれに応じる方法を開拓・開発・創造して行く挑戦が求められている。

隣人 Christian/Muslim/Hindu とのチームワーク

～イエスの視点で、アジアで働く～

1. 現代世界を揺るがす課題の根幹、2015～2016

- 1) 破壊的原理主義・・・IS、イスラム系、ヒンズー系など

2. 最貧国から新興国・新興途上国への変容（1985～2015）

- 1) 草の根レベルの土台作り・・・国際・現地 NGO 活動、乳幼児のいのちの保護、基礎・中等教育の拡大、女性の地位向上
- 2) 国家の安定・経済政策転換 <1991 年>
 - ・バングラデシュの場合、軍事独裁から、民主化へ
 - ・インドの場合、社会主義政策から、経済自由化へ
- 3) 85 年「プラザ合意」・・・「グローバル化」開花へ、「新興国・新興途上国」出現への備え

3. 「宣教のパラダイム転換」（91 年原著、01 年邦訳）時代に鍵となる指針

- 1) 「ケープタウン決意表明」・・・2010 年
 - ・全人的・包括的な宣教を推進する世界の運動体、ローザンヌ運動による
→ イエスに従う誰もが、遣わされた場で、宣教の担い手
- 2) 21 世紀に「イエスを主とする」宣教に求められる視点
 - ・「神の国」： イエスが教え、生きたもの
ヒンドゥーの場合、「分断された社会の回復は可能か？」
 - ・文化脈化： クォラン引用。イスラム社会の「包括性」認識
イスラムの場合、「どこにイエスを見出せるのか？」

4. 現代グローバル・ビジネスの場におかれたキリスト者による社会変革・貢献の可能性

- 1) 耕されてきた、ビジネスのための「とき」
- 2) 「ビジネス」という共通言語を持つ強み — チーム
- 3) 「神の国」の視点を最大限に生かすなら？
インドの非キリスト者・メディア人から日本のビジネスへの提案

5. その他

- 1) Halal Business
<http://www.halal.or.jp/>
- 2) United World College

<https://www.keidanren.or.jp/japanese/profile/UWC/>

地域防災と地域包括ケア

1. 日本が推進中の地域包括ケアシステムの推進

Creation Care を支えるには、日本では「地域防災+地域包括ケア(医療、看護、介護、こころのケア)」を拡大させること、「地球温暖化、生物多様性、低炭素社会、再生可能エネルギーなど」の各専門分野対応をにおける拡大など、多様なテーマが中長期計画で取り組まれており、内外連携による包括的アプローチが求められている。

http://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/gensai/leader_text.html

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureis/ha/chiiki-houkatsu/

http://www.wwf.or.jp/activities/climate/cat1259/cat_activities.html

<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/initiatives/>

http://www.gas.or.jp/kankyo/02_03.html

http://funtoshare.env.go.jp/roadmap/media/h24_3/chpt02a.pdf

2. 幸せな老後と持続可能な社会のために、「健康寿命を延ばす」ことや「未病対策」、プライマリ・ケアの推進が求められている。

<https://locomo-joa.jp/locomo/03.html>

<http://www.pref.kanagawa.jp/prs/p744284.html>

<http://www.primary-care.or.jp/public/>

3. 多文化共生社会における隣人ケアは、海外の事情は元より日本国内でも同じ状況である。外国人医療、国際保健、国際看護など、各地域・業際領域の共同体において日本を愛し日本に居住する外国人が急増する中、在留外国人への地域包括ケアを支える。

<http://jmip.jme.or.jp/>

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進捗状況には大きな地域差が生じています。**
地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**必要があります。



アンビエント情報社会における宣教広報

1. 社会変革

- 1) 社会変革プラットフォーム「変える力」: 衆知を集め、政策にまとめ、提言を行い、広く世に問い、その実現を追求するコミュニティサイトです
<http://www.kaeruchikara.jp/>
- 2) 社会動向レポート
http://www.mizuho-ir.co.jp/publication/report/2011/mhir01_dsm.html

2. 社会貢献

- 1) CSV(Creating Shared Value)
社会的課題を自社の強みで解決することにより企業の持続的成長につなげて行くものである。「共通価値の創造」は、社会問題を企業の事業戦略と一体のものとして扱い、企業のもつスキル・人脈・専門知識などを提供しつつ、事業活動として利益を得ながら、社会問題を解決し、企業と社会双方がその事業により共通の価値を生み出すことである。CSVは、「経済価値と社会価値の向上」をコンセプトとし、「製品・サービス、バリューチェーン、地域コミュニティ」の3点の再定義を手法とする概念で、ビジネスモデルを見直し収益性を確保しながらも社会価値を生み出して行くソーシャルビジネス的視点が含まれている。
- 2) CSR(Corporate Social Responsibility)と CSV
<https://www.eco-pro.ne.jp/info/company/csv/>
http://sustainablejapan.jp/2014/12/16/csv_csr_cr_sr_sustainability/12957
(CSR, CSV, Sustainability, CR, SR の地域別表現)

3. ユビキタス ubiquitous からアンビエント ambient への情報社会変遷
http://www.yomiuri.co.jp/adv/wol/research/tokku_080924.html
4. Diaspora Network for Japanese (<http://www.dnjonline.org/jp/>)における「ビジネス
宣教協力を支えるディアスポラ宣教協力」
Business As Mission with Global Diaspora Network
5. 宣教広報の展望

以上